

2014年度第1回

日本社会福祉学会関東地域部会運営委員会 議事録

日時：2014年5月16日金曜日 18:30-21:00

場所：日本社会事業大学文京校舎 401 教室

出席者(敬称略)：

大島 森田 高山 荒井 小野 黒岩 榊原 月田 贅川 原田 山口 山田
大山(事務局)

報 告：

1. 2013年度関東部会研究大会について

- ・115名の参加、自由研究報告：11会場、30演題
- ・記念講演：東海大学小原眞知子先生「要介護高齢者の退院援助に有効なアセスメント方法の開発とその活用～社会にインパクトを与える研究方法論の視点から～」
- ・シンポジウム：社会にインパクトを与える社会福祉学研究とその方法論
- ・研究奨励賞受賞者：松本望氏「施設内虐待のメカニズム解明に向けたモデル構築～スチーズモデルの援用可能性とその課題～」

<大会所感>

- ・奨励賞は、今年度初。昨年度詰め切れなかった基準を明確にできたのは良かった。
- ・分科会も多くの方が協力してくれた。これも関東部会の文化として続けていきたい。
- ・少人数ではあったが、そのぶん分科会では濃い議論ができた。
- ・開催校で他の学事と重なっていたことため、適切な教室の確保が大変だった。

2. 各部会活動報告

- ・議題「2. 各部会の事業計画」参照。

議 題：

1. 今年度の関東地域部会運営委員、監事、経理担当者、その他の役割分担

1) 今年度の運営委員

理事：大島氏→高山氏

経理：森田氏→大島氏

監事：福山氏→森田氏

事務局：理事の高山氏のところに置く

編集委員会体制：当面何ヶ月間かは、大島氏を編集委員長として、現行通り日本社会事業大学に編集事務局を置く

深谷先生の後任：榊原先生(明治学院大学)、編集委員

福山先生の後任：山口先生(ルーテル学院大学)、編集委員

その他の委員の担当は、2013年度同様とする。

2. 各部会の事業計画

- 1) ホームページ：奨励賞の受賞者、研究大会の抄録を掲載することが現在の課題。
- 2) ニュースレター：毎年1-2月に紙媒体を発行している。原稿依頼は委員が行うが編集、発送は業者が行っている。今の時期の役割はない。

- 3) 社会福祉学評論編集委員会：ようやく体制が整ってきた。理事は交代になるが編集委員長は現体制をもう暫く継続し、現在の進め方を定式化していく。

3. 2014 年度関東部会研究大会について

- 1) 日程・開催地：3月14日 or 15日：卒業式や他学会との兼ね合いで最終的に決定する。開催校は東洋大学。
- 2) 大会テーマ、記念講演、シンポジウム：次回の運営委員会で大枠を決める。
- 3) 研究大会・研究奨励賞について：次の「4. 研究奨励賞について」を参照。

4. 研究奨励賞について

- 1) 奨励賞選考のプロセス：別紙参照。
- 2) 奨励賞の選考基準：文章の緻密さとプレゼンの緻密さは異なるため別途評価して良かった。→抄録での点数は僅差。今年度はプレゼン能力で決まった。
- 3) 奨励賞申込者への周知について：早めの広報をする。奨励賞の案内、学会案内も含めて、11月からの広報では遅いかも知れない
→決まった事柄から順次、広報していく。

5. 社会福祉学評論の発行、編集委員会関連

- 1) 論文の投稿状況：投稿を4回/年と締め切りを設けたことで、投稿が増えた。編集委員を窓口とし、査読者を1名紹介していただき、もう1名の査読者は運営委員の中から依頼するという形で査読体制が整いつつある。
*現在、受理が決まり掲載のための編集を行っている論文が1件、まもなく受理になる論文が1件ある。
→社会福祉学評論13号が発行(ホームページ掲載)されたらメルマガで周知する。
- 2) 博士論文等の投稿について
 - ・博論のアレンジ投稿は二重投稿になるのではないかと、という指摘があった。
 - ・博論で公表されたものの扱いについては学問領域、大学ごとに異なる。社会福祉学会は明確になっていない。
 - ・大学によって、博論提出資格を取得する条件として、関連論文ではなく、本論分の1章分に値する査読論文があることが求められる大学もある。
→文部科学省令が出て博士論文の全文公開がネット上で求められるようになった。その際博士論文を出版など他で予定する場合は、抄録で良いことにもなった。その趣旨を汲み取り、今回は既に博士論文全文がネット上で公開されていなければ、このまま論文審査を進める。親学会でも同様の課題があるので、問題提起して行く。
- 3) 編集委員会規程等(含チェックリスト)の改正(マスキング等)。ul>- ・本文の中に、著者の名前を明記することは禁止となっている。しかし論文内に著者の名前が入っていると査読者から指摘があり、査読辞退に至る事案があった。
→今一度、投稿規程の見直しとチェックリストにチェックボックス欄を設ける。

6. ニュースレターの発行について

- ・紙媒体でのニュースレターの発行について
- ・毎年、議論になることであるがやはり紙媒体は開封率が高い。
→親学会は、ニュースレターも抄録も紙媒体は廃止している。
- ・当面今年度は、ニュースレターの紙媒体発行は継続する。来年度以降、高山担当理事の下で見直しを行う。

7. ホームページに関する課題

- ・報告「2. 各部会活動報告 1)ホームページ」参照。
→現在の課題は、奨励賞の受賞者、研究大会の抄録(フルテキスト)を掲載すること。
- ・評論もフルテキストで掲載されるようになり、キーワード検索でヒットすることが多く、アクセス増につながっていると考えられる。

8. 今年度の運営委員会日程について

- ・各期に開催できたら良いのではないか。次回は夏頃、その次は親学会の時期に開催。

9. その他

次回：2014年8月27日(水)18時-

以上

記録：大山早紀子(日本社会事業大学)